

あか

# 明るくあしたのために

ただ し ただ つた かんが  
正しく知る、正しく伝える、みんなで考えよう。

さ べつ かた さ べつ つた  
差別があるから 語れない 差別があるから 伝えたい

いち ばん い いち ばん わ  
一番言いたくないことは 一番分かってほしいこと

かた い  
肩をいからせるのでもなくおびえて生きるのでもなく

わたし むね は て むす  
私たちは 胸を張って 手を結びたい

ふくおかけんどう びきょういくふくどくほん こうこうせいよう ぼんし  
福岡県同和教育副読本「かがやき」高校生用から抜粋



# そうだったのが同和問題！

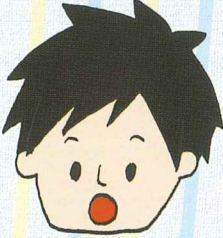


みなさんは、同和問題について正しく知っていますか？  
もう一度、この同和問題特集号をきっかけに、一緒に学んでいきましょう！



同和問題ってなに？

同和問題とは、部落差別が原因として引き起こされる社会問題です。  
部落差別とは、同和地区や被差別部落と呼ばれる地域の出身であることや、そこに住んでいることを理由に、人間らしく生きる権利(基本的人権)が不当に侵害されるということです。  
同和問題は、他の国には無い、日本固有の人権問題です。



どんな部落差別があつてるの？

1. 結婚差別..... 同和地区出身ということで、周りから反対され、愛し合う二人が結婚できない差別です。結婚は本人同士の意志が尊重されるべきであり、あつてはならない差別です。
2. 就職差別..... 同和地区出身ということで、採用の可否を判断することです。就職は本人の努力した結果である能力や適正によってのみ選考されるべきです。
3. 身元調査..... 身元調査とは、本人の知らないところで、出身や家柄を調べらる行為です。結婚差別、就職差別につながる身元調査は許されないことです。
4. インターネットによる差別..... インターネット上で人権侵害に関わる悪質な書き込みが発生しています。インターネットは、情報収集や不特定多数の人に情報を発信できる大変便利なものです。だからこそ、そこには人権を大切にすることが必要です。



私たちの身の回りには、残念ながらまだ、障がい者差別や女性差別等の差別が存在し、部落差別も存在しています。



同和問題はそっとしておけば、自然になくなるのではないのですか？

そっとしておくということは、差別されている人に対して「差別されても我慢して黙っていなさい」と言っていることと同じことではないでしょうか。  
そして、本当にそっとしておけば、自然になくなるのでしょうか？  
福岡県が実施した人権問題に関する県民意識調査(H23年度実施)では、「同和地区」について知らないという人は、回答なしを合わせると5.8%で、ほとんどの人が、「同和地区」を知っているという結果がでています。  
また、「同和地区」をはじめて知ったのは？という質問には、学校の授業が31.9%、メディアからと県や市町村の啓発活動を合わせると12.7%という調査結果でした。残りの55.4%の人は、別の方法で知ることです。  
ほとんどの人が「同和地区」を知っていて、その情報の伝わり方の半分以上が研修会や学校の授業以外であるという調査結果は、「同和地区」に対する予断や偏見がひそかに伝わっているのではないかと想像されます。  
このことから、そっとしておいてはひそかに伝わるだけで、自然になくなることはありません。正しく学び、正しく伝え、正しい行動をしていくことで同和問題は必ず解決していくのです。



同和問題を解決するためにどんなことをしているの？

那珂川町では、平成21年に那珂川町人権教育・啓発基本方針を策定し、町民一人ひとりが日常生活の中で人権尊重について語り合うことや、主体的な行動に結びつくように、同和問題啓発強調月間(7月)や人権週間(12月)の取り組み、啓発冊子の発行をしています。また、各区公民館では人権問題研修会を開催しています。  
さらに、恵子児童館子どもまつり、人権フェスタを開催し、人権の大切さを呼びかけています。



人権フェスタってどのくらいの人に参加しているの？

平成20年は1648人だったのが、平成24年では1992人の参加になっています。

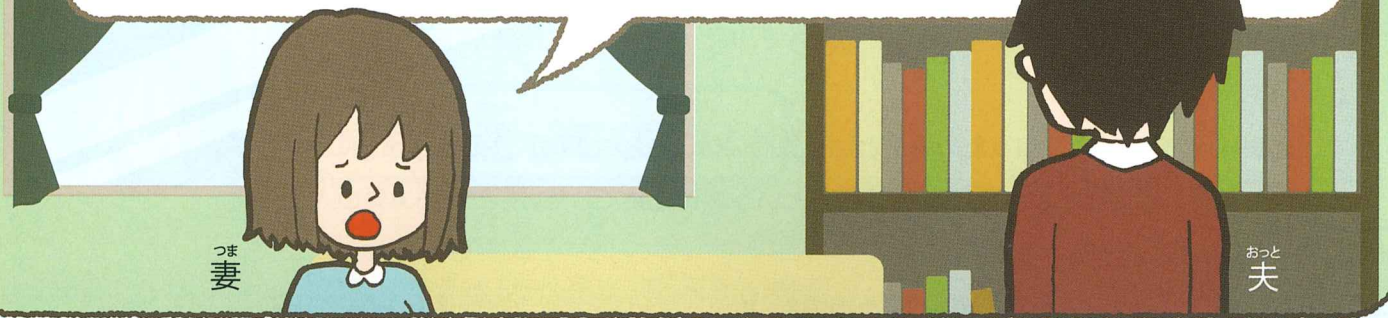


参加者もどんどん増えてきているんだね。

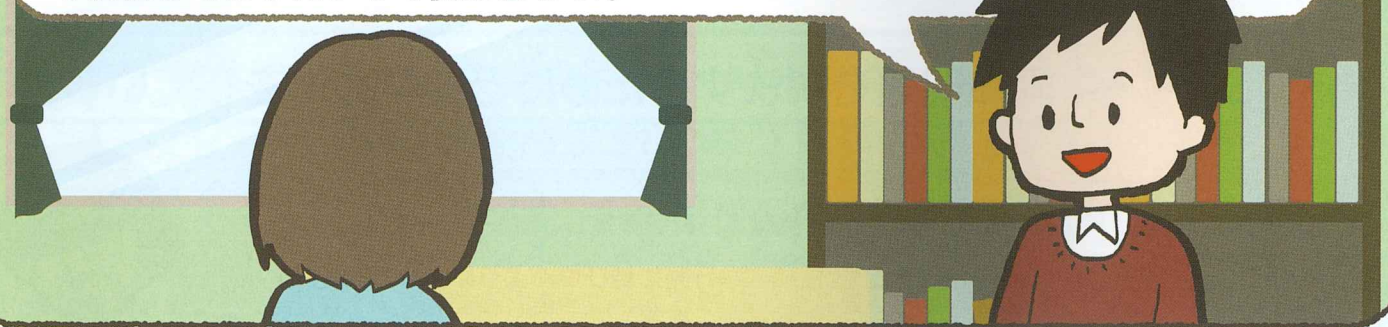
同和問題は重大な社会問題です。その解決が重要であると考え、啓発活動を継続しています。

# 自分の身の回りで起きた時、どう思いますか？

〇〇さんの娘さんが結婚することになったらしいんだけど、相手の人が同和地区の出身だって...私たちの娘も同じ状況になったらどうしよう...。差別をしてはいけないってことはわかっているんだけど、いざ結婚ってことで子や孫が差別されると思うと...



同和地区の人と結婚したら、幸せになれないのかなあ？今までいろいろ研修を受けてきてわかってきたけど、そう思うことが差別に繋がるんじゃないかな。子や孫が結婚するときは、愛し合う二人の意思を尊重して祝福してあげたいって僕は思うよ。



これは実際にあった妻と夫の会話です。

二人とも差別はいけないとは考えているようですが、会話を通してその違いが見えてきそうです。

まず、妻は同和地区の人と結婚することへの不安を口にし、子や孫が幸せになれないと考えているようです。このように、自分との関わりが生じたときに、差別意識が行動として表面化します。差別はいけないと前置きしながらも、実際には差別を容認し、差別を無くそうとする姿勢には立っていないことがうかがえます。

では、夫はどうでしょう。相手が同和地区出身であるかどうかにかかわらず、自分が差別だと思っているようです。また、結婚する二人の意思を尊重し祝福してあげたいとも言っています。人を思いやり、人を大切にしようという気持ちが伝わってきます。差別はいけないという考えを、まさに行動で表しているといえます。

人は誰もが差別はいけないと口にします。しかし、この妻と夫のように、差別はいけないと思いつつも、結果的に差別に繋がる行動をとるのか、人権を尊重し差別をなくす行動をとるのかは、内在する意識に大きく左右されるのです。

私たちは、この夫の言動を手本に、差別はいけないという意識をしっかりと身につけたいものです。

一番わかってほしいこと  
いつもは気軽に話す隆が、ふっと息を詰めた。  
「俺、部落出身なんよ。」  
エツと思った。  
私は何と言ったらいいかわからなかった。  
「そんな、関係ないやん。」  
私はそう答えてしまった。  
いきなりそんなこと言われても...という気持ちだった。  
学校の特設授業で聞いていた「被差別部落」が、いきなり目の前に現れたのだ。  
「そうか、そう...関係ないよね。」と言った隆の顔には、何か割り切れないものがあった。  
「じゃあね。」  
隆はいつもの道を帰っていった。  
「関係ないやん...関係ないやん...」  
私の頭の中でめぐっていた。  
私には視覚に障害のある妹がいた。  
でも、隆には妹のことは話したことがなかった。  
そんなこと「関係ないやん。」と思っていたからだった。  
帰りながら、そのことが頭に浮かんでいた。

家に帰った。  
思い切って妹に尋ねてみた。  
「私があんたのことを友だちに言っただけで、『関係ないやん。』って言われたら、どう思う...」  
「そんなの関係ない。」って言われるって、うれしいよね。」  
「自分は差別せんよって意味やろ。」  
「そう。」  
「うん...でもね。本当に私たちのことを知ってて言うなら、うれしいけどね。」  
「本当に私たちのことって？」  
「この間ね、と妹が続けた。  
「学校の授業で聞いた歌の中にね、  
『差別があるから語れない。差別があるから伝えたい。』  
一番言いたくないことは、一番わかってほしいこと。」  
「って、歌詞があったと。」  
「そうやね、一緒やねって思ったと。」  
そんなことって、本当は、みんなどこかにあるんやないかって思ったと。」  
「そうか、一番言いたくないことを隆は私に言ったんだ。」  
そして、「一番わかってほしいことを隆は私に言ったんだ。」  
明日、今日のこと、妹のことを隆に話そうと思っただ。  
そして、隆の話を聞いてみようと思っただ。

福岡県同和教育副読本「かがやき」高校生用から抜粋

「私」は差別をしていません。これからだってそうです。でも「私」は変わります。

これから差別をなくしていく人に。あなたがもし大切な人からこのような告白を受けたら何と言いますか？

自分自身に起きたと思って想像してみてください。差別は今もあなたの身近に存在しています。

# どうすれば同和問題を解決できるか

同和問題が私たち一人ひとりの問題であり、解決しなければならない問題であると説明してきました。  
 同和問題は決して自然になくなっていくものではありません。  
 では、同和問題を解決するためにはどうしたらよいのでしょうか。

冬の日のことだったという。  
 満員のバスで赤ちゃんが激しく泣き出した。車内は乗客の人のいきれと暖房で暑いくらいになっていた。  
 あやされても泣きやまない。次の停留所で何人かが降り始めた。  
 後方から「降ります」と乗客をかき分けながら降りようとしたお母さんに、運転手は「ここでのいのですか」と尋ねた。「子供が泣くので・・・」「歩くのは大変ですよ」運転手はマイクのスイッチを入れて言った。  
 「子どもは小さいときには泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞみなさん、少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せていてください」  
 ... 中略 ...  
 運転手が乗客に呼びかけたバスの中では、数秒後に拍手が起こり、お母さんは何度も何度も頭を下げたようだ。

にしにほんしんぶん「春秋」2013.1.8から一部転載



上記の場面は、普段どこにでもあある一場面かもしれません。  
 この場合では、運転手さんのお客さん(人)を思いやり、大切にす気持ちに裏打ちされた勇気ある行動、小さな一歩が大きな輪へと広がり、大きな力を呼び起こしました。  
 では、同和問題解決のために私たちが出来る一歩とは何でしょうか。  
 研修会や講演会へ参加することも私たちが出来る一歩です。人権フェスタや恵子児童館子どもまつりにスタッフとして参加することも私たちが出来る一歩です。また、差別的な言動をしている人に対して、「おかしい」と私は思うよ」と伝えることも私たちが出来る一歩です。人それぞれの一歩は違っても、それぞれ大切な一歩です。私たち一人ひとりが、一歩また一歩と確実に踏み出していけば、同和問題をはじめとする全ての人権問題は解決へと進みます。  
 すべて人は誰からも差別を受けず、自分らしく生きたいと願っています。このことを実現するため、那珂川町は人権文化に満たされたまちの創造を目指しています。

# 那珂川町の取り組み

5月

## 恵子児童館子どもまつり

人権を大切にす子どもを育てるために、子どもの健全育成を支援する団体で実行委員会を組織し、開催しています。遊びのコーナー・体験コーナー・竹細工コーナーなど楽しいイベントが盛りだくさんです。

## 同和問題啓発強調月間

福岡県・各市町村では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」と定めて、部落差別をなくす取り組みを行っています。

7月

## 同和問題講演会

同和問題啓発強調月間の取り組みのひとつとして、全町民を対象に同和問題講演会を行っています。

## 各区公民館人権問題研修会

人権が大切にされる地域づくりを自指し、各区公民館において人権問題研修会を開催しています。

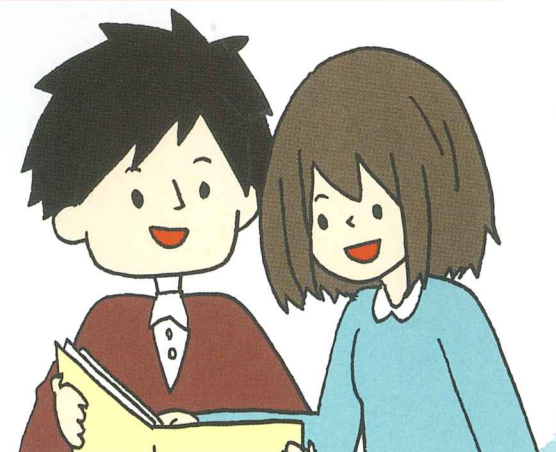
12月

## 人権週間

法務省と全国人権擁護委員連合会は、世界人権宣言にちなみ、12/4～12/10を人権週間と定めて、人権尊重のための啓発活動を全国的に行っています。

## 人権フェスタなかがわ

人権週間の取り組みのひとつとして、町民組織である人権フェスタなかがわ実行委員会を組織し、さまざまな人権問題の啓発やイベントを行っています。



7月<sup>がつ</sup>は同和<sup>どうわ</sup>問題<sup>もんだい</sup>啓発<sup>けいぱつ</sup>強調<sup>きょうちよう</sup>月間<sup>げつかん</sup>です。  
正<sup>ただ</sup>しく知<sup>し</sup>る、正<sup>ただ</sup>しく伝<sup>つた</sup>える、み<sup>みんな</sup>なで考<sup>かんが</sup>えよう。

人権<sup>じんけん</sup>に関する<sup>かん</sup>相談<sup>そうだん</sup>窓口<sup>まどぐち</sup>

福岡<sup>ふくおか</sup>法務局<sup>ほうむきょく</sup> 筑紫<sup>ちくし</sup>支局<sup>しきょく</sup>

092(922)2881

那珂川<sup>なかがわ</sup>町<sup>まち</sup>住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>生<sup>せい</sup>活<sup>かつ</sup>部<sup>ぶ</sup>人<sup>じん</sup>権<sup>けん</sup>政<sup>せい</sup>策<sup>さく</sup>課<sup>か</sup>

092(953)2211(内線<sup>ないせん</sup>182・183)

発行：那珂川町

編集：那珂川町同和問題等啓発資料編集委員会

印刷：株式会社ディスジャパン